

中学生（高校生）時代の学校関連の 楽しみについての調査

——戦後から最近までの世代差を中心に——

勝浦クック範子

はじめに

不登校、いじめによる自殺等学校をめぐる問題が社会問題となって久しい。学校というシステムが行き詰まりを見せ、その「犯人探し」が盛んな昨今である。我々は幅広い世代を対象に人生の各時期での楽しい経験について調査を進めてきているが、その調査から「楽しみ」という視点で学校の果たしてきた役割とその変化を調べ、現状分析の1つの試みとしたい。（小学校での楽しみについてはすでにまとめており⁽¹⁾、このレポートでは中学校を中心に報告をする。）我々が「楽しみ」の調査をしてきたのは、「楽しみ」が人間の発達の要因として重要であると考えからである。フロイドは口唇期に口唇での快感を充分経験することの重要性、即ち発達段階に即した快感経験の重要性を説いたが、我々は快感をより日常的な言葉である「楽しみ」に置き換え、人が発達するにはどんな時期にどんな「楽しみ経験」が必要なのかを明らかにしたいと考えている。現実の問題、例えばいじめを考えると、いじめがもたらす何等かの快感（例えばいじめ側の仲間意識の高まりなど）、即ち「楽しいから」という動機の内容は無視できない。いじめを無くすにはそれに替わって満足をもたらすものが必要なのである。ある学生のレポートにいじめ問題に対処するには「いじめよりもっと楽しいことを教えない」とあったが同感である。同様に万引きの楽しみは昔の柿泥棒のように採集の楽しさに加えて大人に挑戦するスリルがあるのかもしれない。そこで、健全な発達という視点からはいじめや万引きを単に止めさせようとするのではなく、その動機となるたのしみを分析し、別な形でその欲求を満足させる配慮が必要であろう。このように子どもの問題行動に対処する上からも楽しみを「発達課題」としてとらえ、分析することが有効であると考えるのである。

対象と調査方法

対象者は調査当時中学生（青年前期）、大学生（青年後期）、壮年世代の3世代であり、調査期間は壮年及び大学生は1994年7月から1995年7月まで、中学生は1997年11月から1998年3月までであった。各世代の人数は中学生が224名（男子108名/女子116名）で都区内のA中学3年生（男子67名/女子80名）及び長野県農村部のB中学3年生（男子41名/女子36名）であった。大学生は237名で男子は都内M大学生124名（M：平均年齢＝21.2，SD：標準偏差＝1.5），女子は都内T女子大学生113名（M＝19.9，SD＝0.9）であった。壮年世代は226名で女子大学生の両親であり、男性は113名（M＝51.2，SD＝4.2），女子も113名（M＝48.6，SD＝3.2）であった。なお対象者の出生年は壮年世代が1935年から1949年まで（調査当時45歳から60歳未満），男子大学生が1970年から1975年，女子大学生が1973年から1976年，中学生が1983年から1984年であった。彼等の中学生時代は壮年世代が1950年代，大学生（青年後期）世代が80年代，中学生（青年前期）世代が90年代である。

調査方法は幼児期から現在までの各時期に「楽しかったこと」を「できるだけたくさん思い出し」，内容（どんなこと）の他，場所（どこで），相手（だれと，何人で）について自由に記述するというものである。他に対象者の家族構成などの属性，生活時間などについての質問項目がある。「楽しかった」ことの内容の分析はKJ法に準じ，意味のとれる最小単位に分け，分類した。時期の区切り方は中学生，大学生については小学校入学以前，小学校時代，中学校時代と区切ったが，壮年世代は中学・高校時代（10代）が1時期にまとめられており，中学校時代だけの記述は無いので，中学・高校時代についての分析である。

結 果

主な結果は表1～表10にまとめたがその内容を以下に示す。

(1) 学校関連のたのしみに分類したものは登校から下校までの拘束時間の他，放課後の自由時間や部活など学校で過ごす時間内，及び登下校中の出来事である。又，遠足等学外での学校行事，部活の遠征なども含めたが，学校の友人との学外での自由な交流，教師宅の私的な訪問など正規の学校の活動の延長でない経験は含めなかった。その他学校の成績が良い，友との出会いなど抽象的な楽しみも含めた。学校関連の全ての楽しみを分類し，それぞれの件数を表1（壮年，大学生），表2（中学生）に示した。（件数の書いてないものは1件。）

(2) 各群の記述者の人数（％），記述された楽しみの平均件数（M），標準偏差（SD）は表3に示し，性差についてT検定をした。

(3) 学校関連の楽しみを1件以上記述した人数（楽しみ有り群）の群全体に対する出現率を

表1 壮年世代・大学生の学校関連の楽しみの内容と件数

群 分類	壮年（中・高時代）		大学生（中学校時代）	
	男性（189件）	女性（206件）	男性（227件）	女性（306件）
学校生活全体		2：学校生活	1：学校そのもの	1：学校へ行く事
正課等の時間	4：授業，音楽，英語の時間にバレーボール，女子と教科書を見る		10：授業5，掃除2，給食，テスト，学級活動	15：昼食8，授業4（音楽，水泳，家庭科），席替え，掃除，早朝漢字練習
自由時間 スポーツ	25：野球8，ソフトボール4，サッカー3，卓球2，マラソン2，体操，プール他2，スポーツ2	25：卓球5，ソフトボール2，ドッジボール2，バレーボール，バスケ，スケート	12：サッカー5，野球3，バスケ2，球技，テニス	11：バレーボール4，跳び箱3，バスケ3，ソフトボール，器械体操
遊び	3：チャンバラ，馬跳び，カルタ	18：縄飛び4，他外遊び8，室内の遊び4（折り紙等），合唱，賛美歌	11：昼休みの遊び5，鬼ごっこ3，TRPG，歌を歌う，ゲーム	5：トランプ3，歌を歌う，遊ぶ
他（交流）	3：おしゃべり，話す，デート	17：おしゃべり14，他3（交換日記，文通等）	17：おしゃべり15，デート2	50：おしゃべり43，交換日記6，漫画の貸し借り
（活動）	2：生徒会，柔道部の設立	12：生徒会2，他10（読書，応援，勉強，学校に泊まる，菓子作り他）	2：生徒会・委員会3，新聞作り	10：生徒会6，その他4（新聞，壁模様，小道具作り，遅くまで残って仕事）
部活	71：野球15，テニス6，柔道4，バスケ3，サッカー2，山岳部2，他11，吹奏楽7，合唱2，他6，部活3，試合3，合宿，部活後3（おしゃべり，買い食い他），他10	49：バレーボール7，テニス4，陸上3，バスケ2，他3，新聞2，放送2，英語2，美術2，オーケストラ2，他5，部活5，試合1，合宿5，他4（部活後のおしゃべり等）	81：野球16，サッカー11，テニス6，卓球4，バレーボール3，剣道2，バドミントン，水泳，吹奏楽2，科学部2，部活12，試合15，合宿3，部活引退後の放課後	89：テニス7，バスケ4，ダンス4，バドミントン3，卓球2，陸上2，バレーボール2，剣道，他3，楽器演奏3，他3，部活12，合宿10，試合4，おしゃべり21，その他8
行事	45：修学旅行19，文化祭4，遠足2，運動会2，天文，観測2，その他15	52：修学旅行27，文化祭5，運動会5，スキー教室3，合唱祭2，クラスマッチ2，他8	42：体育祭17，修学旅行10，文化祭・合唱祭8，遠足・移動教室5，キャンプ2	89：修学旅行24，文化祭19，体育祭12，合唱祭10，球技大会5，林間学校4，遠足3，その他12
登下校	11：買い食い5，電車通学2，汽車，自転車通学，道草，寄り道	25：おしゃべり9，食べる8，寄り道4，電車通学2，自転車通学		15：寄り道10，おしゃべり4，登下校
悪さ・騒ぎ	6：早弁2，友人に悪戯，先生に雪を投げる，先生を胸上げてプールに落とす，学校の鯉を釣る	8：買い食い5，友達とふざける2，授業中のいたずら	8：サボる，喧嘩，騒ぐ，死刑遊び，汚い奴を馬鹿にする，落書き，かけ（芝生を滑る）	14：授業中5（おしゃべり，内職，居眠り等），サボる2，ふざける，禁止の自転車通学，服のまま海へ入る，菓子を食う，男の子の追っかけ等4

表1 壮年世代・大学生の学校関連の楽しみの内容と件数（つづき）

群 分類	壮年（中・高時代）		大学生（中学校時代）	
	男性（189件）	女性（206件）	男性（227件）	女性（306件）
達成感 優越感	15：優勝6，合格3， 選手になった， 成績伸びた， 生徒会長になった他	4：成績が上がる3， 高校入学	18：成績7，スポーツ ヒーロー5， 合格3，勉強が 出来た2，役員に	2：バスケ優勝， 剣道で好成绩
教師との交流	1：よく褒められた	1：シスターと寮生活	1：先生とおしゃべり	3：先生の結婚式， 話す2
その他	3：リヤカーから落ちて 気絶した， 生徒会長選の演説， 弁論大会で大人気	6：広々とした学校， 好きな人を眺める2， セーラー服を着た， 色々な人と会い ジョック， 飼い猫が来た	2：仲間との出会い， 良い友がいた	2：成績のほりあい， 私服通学

表2 中学生の学校関連の楽しみの内容と件数

群 分類	男性（62件）		女性（113件）	
	東京（38件）	長野（24件）	東京（66件）	長野（47件）
正課等の時間	1：給食			1：水泳の時間
自由時間 スポーツ	27：サッカー20， バスケット3， フール2， 野球， ボール遊び	13：バスケット8， サッカー2， 卓球， ドッジボール， キャッチボール	19：バレーボール17， バドミントン， バスケット	3：バドミントン， バレーボール， なんでもバスケ
遊び	3：雪合戦2， K1グランプリ ごっこ		5：鬼ごっこ，氷鬼， おいかけっこ， かけまわる， 王様ゲーム	3：鬼ごっこ， 百人一首， ブリクラ集め
その他（交流） （活動）	1：話す	1：話す	19：話す 1：ファンクラブ設立	5：話す 1：生徒会
部活	1：野球	9：バスケ4， 部活2， サッカー， バンド，吹奏楽	5：部活3， バレーボール， おしゃべり	4：料理クラブ，太鼓 クラブ，部活 での落ち葉拾い， おしゃべり
行事	1：修学旅行	1：文化祭	14：修学旅行3， 運動会3， 学芸発表会3， 移動教室3， 連合陸上大会， クラス対抗ドッジ ボール	29：文化祭10，修学 旅行5，大縄大会3， バスケット2，手つなぎ 鬼2，福祉体験， 新宿区と交流会， 花見，合唱コン クール他
悪さ・騒ぎ	2：授業を抜け出す， 学校に忍び込む		3：ストーカーもどき， 偽ラブレター， いたずら	1：スカートめくり
教師との交流	1：保健室へ行く			
その他	1：休み時間			

表3 楽しみを記述した人数(%)と平均記述件数(M)及び標準偏差(SD)

	壮 年		大 学 生		中 学 生			
	男 性	女 性	男 性	女 性	(東 京)		(長 野)	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
記述人数 (%)	113 (100%)	111 (98.2%)	111 (89.5%)	112 (99.1%)	60 (89.6%)	77 (96.3%)	38 (92.7%)	31 (86.1%)
M±SD	4.4±2.9	4.6±2.7	3.5±2.3	5.7±3.1	3.2±1.9	3.6±2.0	1.9±1.3	2.6±2.6

T 検定の結果 性差: 大学生 女性>男性 ($p<.01$)地域差 (中学生): 東京>長野 (男性: $p<.01$, 女性: $p<.05$)

表4 学校関連の楽しみの出現率の世代間比較

	男 性			女 性		
	壮 年	大学生	中学生	壮 年	大学生	中学生
有りの人数/総人数	81/113	102/124	51/108	82/113	108/113	61/116
出現率	71.7%	82.3%	47.2%	72.6%	95.6%	52.6%

カイ二乗検定の結果:

男女とも $p<.01$

フィッシャーの直接法の検定結果

男性: 大学生>壮年>中学生
($p<.01$)女性: 大学生>壮年>中学生
($p<.01$)

表5 学校関連の楽しみ件数の総件数に対する占有率の世代間比較

	男 性			女 性		
	壮 年	大学生	中学生	壮 年	大学生	中学生
関連件数/総件数	189/478	227/383	62/254	206/503	306/607	113/383
総件数中の%	39.5%	59.3%	24.4%	41.0%	50.4%	29.5%

カイ二乗検定の結果:

男女とも $p<.01$

フィッシャーの直接法の検定結果

男性: 大学生>壮年>中学生
($p<.01$)女性: 大学生>壮年>中学生
($p<.01$)

表6 楽しみの分類内容それぞれの学校関連総数に対する占有率の世代間比較

	男 性			女 性		
	壮 年	大学生	中学生	壮 年	大学生	中学生
部活/関連件数	75/189	81/227	10/62	49/206	93/306	9/113
関連件数中の%	39.7%	35.7%	16.1%	23.8%	30.4%	8.0%
行事/関連件数	45/189	42/227	2/62	52/206	87/306	43/113
関連件数中の%	23.8%	18.5%	3.2%	25.2%	28.4%	38.1%
スポーツ/関連件数	25/189	12/227	40/62	12/206	11/306	22/113
関連件数中の%	13.2%	5.3%	66.7%	5.8%	3.6%	19.5%
会話/関連件数	3/189	35/227	2/62	24/206	69/306	24/113
関連件数中の%	1.6%	15.4%	3.2%	11.7%	22.5%	21.2%

注) 部活, 会話の件数は表1, 2では他に分類したものも加えてあるので表1, 2の件数よりも多い。

カイ二乗検定の結果:

男女とも $p<.01$ フィッシャーの直接法で有意な結果: $p<.01$

部 活

男性: 壮年, 大学生>中学生

女性: 大学生, 壮年>中学生

行 事

男性: 壮年, 大学生>中学生

女性: 中学生>壮年

ス ポー ツ

男性: 中学生>壮年>大学生

女性: 中学生>壮年, 大学生

会 話

男性: 大学生>中学生, 壮年

女性: 大学生>壮年

表7 学校関連の楽しみの出現率の男女比較

	壮 年		大学生		中学生	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
有りの人数/総人数	81/113	82/113	102/124	108/113	51/108	61/116
出現率	71.7%	72.6%	82.3%	95.6%	47.2%	52.6%

フィッシャーの直接法で有意な結果

大学生：女性＞男性($p<.01$)

表8 学校関連の楽しみ件数の総件数に対する占有率の男女比較

	壮 年		大学生		中学生	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
関連件数/総件数	189/478	206/503	227/383	306/607	62/254	113/382
総件数中の%	39.5%	41.0%	59.3%	50.4%	24.4%	29.6%

フィッシャーの直接法で有意な結果

大学生：女性＜男性($p<.05$)

表9 楽しみの分類内容それぞれの学校関連総数に対する占有率の男女比較

	壮 年		大学生		中学生	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
部活/関連件数	75/189	49/206	81/227	93/306	10/62	9/113
関連件数中の%	39.7%	23.8%	35.7%	30.4%	16.1%	8.0%
行事/関連件数	45/189	52/206	42/227	87/306	2/62	43/113
関連件数中の%	23.8%	25.2%	18.5%	28.4%	3.2%	38.1%
スポーツ/関連件数	25/189	12/206	12/227	11/306	40/62	22/113
関連件数中の%	13.2%	5.8%	5.3%	3.6%	66.7%	19.5%
会話/関連件数	3/189	24/206	35/227	69/306	2/62	24/113
関連件数中の%	1.6%	11.7%	15.4%	22.5%	3.2%	21.2%

フィッシャーの直接法で有意な結果

部 活

壮 年：男性＞女性($p<.01$)

行 事

大学生：女性＞男性($p<.011$)

中学生：女性＞男性($p<.01$)

ス ポー ツ

壮 年：男性＞女性($p<.013$)

中学生：男性＞女性($p<.01$)

会 話

壮年，中学生：女性＞男性
($p<.01$)

表10 学校関連の楽しみの出現率，占有率，分類内容の占有率の地域（学校間）比較

	学校関連の楽しみの出現率	総件数に対する占有率	分類内容の占有率			
			部 活	行 事	ス ポー ツ	会 話
東京	68/147(46.3%)	104/474(21.9%)	6/104(5.8%)	15/104(14.4%)	46/104(44.2%)	20/104(19.2%)
長野	44/77 (57.1%)	71/163(43.6%)	13/71 (18.3%)	30/71 (42.3%)	14/71 (19.7%)	6/71 (8.5%)

フィッシャーの直接法で有意な結果

長野＞東京
($p<.01$)

長野＞東京
($p<.01$)

長野＜東京
($p<.01$)

(ボンフェローニの不等式により下位検定の危険率の合計： $p<.05$)

表4に示し，男女それぞれ世代差をカイ二乗検定した。その結果，有意 ($p<.05$) であった場合はフィッシャーの直接法を用いて下位検定をし，ボンフェローニの不等式で有意水準を調整して下位検定の危険率の合計が5%以下になるようにした。

(4) 各群ごとに学校関連の楽しみ件数の総件数に対する%を占有率とし，世代間比較の検定

結果とともに表5に示した。ついで、分類内容のうち件数の多い「部活」、「行事」、「スポーツ」、「会話」について学校関連の楽しみ件数に対する％を表6に示し、検定結果をも示した。

(5) 表7, 表8, 表9は表4, 表5, 表6に対応した男女を比較した表と検定結果である。

(6) 表10は中学生についての地域差(学校差)をまとめたものと検定結果である。

(7) 表には示していないが、学校関連のたのしみが有る人のうち、それ以外のたのしみが無い人の人数と出現率は壮年世代の男性は17人(15.0%), 女性10人(8.8%), 大学生世代の男性は32人(25.8%), 女性19人(16.8%), 中学生世代の男子は14人(13.0%), 女子は21人(18.1%)であった。中学生について地域別にみると東京の男子は4人(6.0%), 農村の男子は10人(24.4%), 東京の女子は9人(11.3%), 農村の女子は12人(33.3%)であった。

ま と め

1. ピークは中学(高校)から小学校へ移行, 中学生では学校離れ

中学生の学校関連の楽しみは出現率, 占有率ともに他の世代に比べて低いという結果であった。(表4, 表5)最近の中学生にとって「楽しい」場所としての中学校の役割は以前よりも減少してきている。この結果は小学校時代についての世代間比較の結果とは逆である⁽¹⁾。小学校での出現率は男女とも中学生, 大学生が壮年より高く, 占有率では男女とも世代が下がるにつれて順に高くなった。このように中学生世代が前の世代より高いことはあっても低いことは無かった。次に各群の小学生から中学生への変化を調べて見ると, 壮年, 大学生では学校関連の楽しみの役割は小学生よりも中学生(高校)の方が大きい。(壮年: 男女共出現率, 占有率ともに小学校<中学・高校。大学生: 男女共出現率は有意差無し。占有率は壮年同様男女共小学校より中学校の方が高いが, 高校では占有率が男性29.9%, 女性32.4%に下がる。)一方, 中学生では男女共, 出現率, 占有率共に小学校の方が高い。(以上カイ二乗検定 $p<.05$) 大学生世代と中学生世代の年齢差は10歳前後であり, 壮年世代と大学生世代間の隔たりよりも短い, その間の子どもの生活の変化は大きかったもようである。子どもにとって楽しい居場所として学校が大きな役割を占める時期が早くなり, 学校離れも早くなったとも考えられる。

2. 学校離れの一因は部活離れ

楽しみの内容を世代間で比較すると, かつて人気のあった部活の占有率が男女とも低下した。(表6)ただし, 他の世代にとって中学校時代は過去だが, 中学生世代にとっては現在であることの影響が考えられる。部活のような辛い面もあることはその当時は「楽しい」と思えないかもしれないが過去になれば「思い起こせば楽しかった」こととしては記述される可能性がある。行事に関しては男性と女性で逆の結果となり, 女性では増え, 男性では減った。

3. 学校離れは都市の方が農村よりも大きい

表10で地域差をみると農村の学校の方が学校関連の役割が高く、学校離れは都市部の方が大きいことを示唆している。学校以外での楽しみを比較すると東京ではカラオケ、買い物など町での遊びが目立つ。(カラオケ：東京30件、長野2件、買い物：東京40件、長野4件) 因みに生活時間を比較すると男子ではTV/ゲームの時間(5.93/3.1時間/日)、塾等の時間(6.16/1.83時間/週)ともに東京の方が長く、女子では塾等の時間(6.26/2.66時間/週)が東京の方が長野より有意に長かった。⁽²⁾

4. 男性は部活、スポーツを、女性は行事、会話を楽しむ傾向

男女を比較すると大学生ではたのしみの出現率は女性の方が高いが占有率は逆に男性の方が高いという性差が認められた。(表7、表8) 学校関連の楽しみのある男子の場合、楽しみの学校集中が顕著であるという結果である。楽しみの内容を見ると部活、スポーツは男性>女性、行事、会話は女性>男性という性差がいくつかの世代で認められた。(表9)

最後に学校のあり方を学校関連の楽しみの出現率、占有率から考えると、出現率は高い方が学校での楽しみのある人が多いことなので望ましいが、占有率は学校以外の楽しみとのバランスが大切であり、高い方が望ましいとは限らない。占有率の高すぎは楽しみの学校への集中、言い換えると学校以外の居場所や人間関係の乏しさを意味し、学校で問題を抱えたときに逃げ場がないことにもなる。学校関連の楽しみ以外にはたのしみの無い人の出現率は少ない方が望ましいが、最も多かったのは男性では大学生世代で32人(25.8%)、女性では中学生世代の農村の女子で12人(33.3%)であった。楽しみの内容については、どの世代でも正課以外の事が殆どであった。学校での楽しみは学校生活の「周辺」や「隙間」にあるといえる。また、壮年世代、大学生世代では寄り道や悪さ・騒ぎなど「悪い」事をたのしんだ例が目立つが、中学生では両地域とも悪さ・騒ぎの例は少なく、農村の男子では皆無であった。以上限られた対象者についての分析結果であるが、学校のあり方を考える資料として、また今後楽しみの「発達課題」を考える上でも生かしたいと考えている。

文 献

- (1) 勝浦クック範子、池田紀子、小澤道子、羽室俊子「小学校でのたのしみ経験一世代差、性差を中心に」第10回日本発達心理学会、1999年
- (2) 池田紀子、羽室俊子、小澤道子、勝浦クック範子、上田礼子「中学生のたのしみ経験の地域差—東京と農村地域の比較—」第45回日本小児保健学会、1998年